

劇場版インフィニッ  
ト・ストラトステイ  
ターの逆襲

ブリオン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

亡国企業との争いから3年が経過した

勝利はしたものの、その最終局面で東博士は片腕を失った。

卒業後、代表候補生達はそれぞれの国に帰還し、活躍していた。

一夏と箒は、日本の国防軍に入隊し、コンビで活動していた。

世の中が少しずつ平和を取り戻し、戦争を忘れ始めていた。

そんな中、世界各所で3日のISによる襲撃事件が起こる。3機は同型だと思われるそれぞれ攻撃、防御、機動力に特化している。

彼らの所属、動機を調べる一夏と箒の前に1人の少女が現れる。

これは、自らを探す物語。

# 目次

プログラグ

---

1

# プロローグ

(私は誰だ。)

それは人口羊水の中で目覚める

(私はどこにいる。)

それのいる水槽の周りで歓声に似た騒めきがおこる。

彼らは皆同じ白衣を着て何かのデータを懸命に記していた。

そんな中、最も年老いた人間がその前に歩み出てきた。

(……)

「目覚めたか、君の名は『ティーツ』」。

君はここで我々の手で作られた。君は『シノノ タバネ』という、人類の到達点の腕の細胞から作られた地上で最強の生物であり、地上で最強の I S だ。」

(アイエス……)

それが自分の胸元を見ると心臓にあたる部分が赤、青、緑の三色に光っていた。

(……は狭い、邪魔だ)

それが億劫そうに力を入れると水槽が弾け飛び外に出られた。

「実験は成功だ。ようこそ、ティーツ。」

それがこの世に出て最初に抱いた感情は誰に向けているのかもわからないやり場のない怒りであった。

「ティーツ」はそれから多くの改造を施された。

まずさまざまなこと教えられた。

篠ノ之博士のこと、ISのこと、亡国企業のこと、世界のこと、自分のこと、闘いのこと。

そこで自分が亡国企業の残党が作った人型兵器であると知った。

次に兵器として身体を変えられた。

心臓の三つのISCコアに大量の武装を詰め込まれた。膨大な戦闘データを頭に詰め込まれた。あらゆる能力を高めるナノマシンを全身のいたるところに詰め込まれた。

そして兵器として完成させるために感情を消された。

命令にのみ忠実に従う兵器となった。

最後に多くの実戦経験を積んだ。

敵対組織の施設で殺し、戦場で殺し、街中で殺した。

より上手く闘い、殺すようになった。

こうして「ティーツ」は完成した。

(……?)

それは唐突に芽生えた。

消されたはずのそれは感情というものだ。

ISコアの中にあるとされる「感情」、ティーツの中に三つあるそれらが一つとなり、奇跡的に感情が芽生えたのだ。

それと同時に自分が行ってきた殺戮を知る。

(なんだこれは?こんなもののために私は生きてきたのか?こんなもののために私は作られたのか?)

ふざけるな!!?)

それは激しい怒りとともに理解したなぜ自分が作られたのか、なぜ戦わなければいけなかったのか、なぜ世界で戦争をしていたのかを。

(私はISとして作られた!)

しかし肉の体を持つ私はISではない

私は兵器として望まれた!

しかし感情を持つ私は兵器となれない

そして作られた命である私は人間ですらない！

誰が、誰がこんなものを作れと頼んだ!!？

誰が願った!!？

この感情は、怒りは間違いなく私のものだ。

ならばこれから行われることは、闘争でも宣戦布告でもない。

一方的な私の、私を生んだ世界に対する

逆襲だ！